

だんく決心が固まり、方法も
へらにだした。やがて龍太郎は
お鈴の前ソファーに運って来て
腰を下して
「お鈴ちゃん、大へんな事なれ
ば下さつて有難う。これはあな
たのとばかりでなく、伯爵家に
そつての大問題です。きつきあ
なたのお母さんか見つけてあけ
ます!」力力を籠めて云つた
「有難うございます。お願ひしま
す!」
どうであらうとびくくしてる
たのに、今度こそ心からほほせし
さうがりますか?」
さうがりますか?



深まる疑惑 (1)
「でも……」お鈴は、そばは躊躇
した。
萬一、伯爵の令嬢でなかつた際
そこを追り出されて行く自分の事
へるあまり悔めすぎるからであ
る。龍太郎も察して
「それでは、一應、高野さんのお
宅へ歸つて見て下さい。改めて
御用意しますから……!」
「あたし、庄作さんをばなんこ
がこ一緒になら、そこにでもやつ
て頂くうちも。先生のお宅へ
お母さんも、もし本當のお母さん
でなかつた時には……」
「ううですね。それはい」とです

麗人哀歌 (137)
小柴浩(画)
「え、それは……でも、困ります
したわ。あたし……」
「そのほかには、方法がないで
す!」
「……において頂けば、おひさち
やんにもお暇にからねばなら
ないでさう。あたしの申上げた
ことが間違ひで、あたしが追出
されるのは當然ですけれど……
萬々一、おひさちやんが出て行
かれやうになるぞ。そのお母
さんはいろいろ心思になつて
育てられて來てゐます。子供の
時から仲よくしてゐるのに、あ
れは、とても、とても、
これほど珍れ、苦しめられて
ても、お鈴は、まだお綱の恩み
おひさちに対する友情を感じよう
としてる。暫らく、遠方に暮れ
たやうに考へてゐながら、
「待つて下さい。おひさちやん
のとさくへば……カム」
何か新しいことを心に浮んだの
である。龍太郎は、改めてぢつと
考へ込んだ。

「そな非難などはない。じか

「龍太郎は、その理窟でない理窟

を

かば

を

知らばひた所のみ

を

かば

を